

東京オートサロン2018

注目すべきユーロパーツ全紹介

TUNERS COMPLETE
TECH ART

971 PANAMERA GRAND GT
991 GT STREET R

TOYO TIRES

ESフォー
EUROMOTIVE MAGAZINE
73
2018 MARCH

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

[TOP ISSUE]

driven to modify
そのユーロに、驚きはあるか。

AUDI TT RS / LAMBORGHINI AVENTADOR S / AUDI R8 V10 PLUS / AUDI S4 / BMW M3

EURO MODE 2018

注目のユーロブランド最新スタディ

J Factory Audi S5 / Carlsson CS60
Alpini Audi R8 V10 PLUS
LEAP DESIGN MASERATI LEVANTE

Audi TT RS Coupe
Completed by H-SPORT



BMW EVOLUTION 2018

もっとも新しいBMWモディファイ

3D Design i8 & 530i TOURING / HAMANN 530i / Next Innovation 420i

LEAP DESIGN CARBON DRESS UP PARTS

派手さはないが、存在感は絶大。だからこそ支持されるリープのエアロ

メルセデスなら「質実剛健」、BMWなら「スポーティー」と言った具合に、ひと言キャッチフレーズをメーカーに付けるとしたら、マセラティには「色香」のフレーズがピッタリとハマる。なにせ2ドアのグラントウーリズモはもとより、4ドアのクアトロポルテやギブリだって、生活臭は皆無。速さのみならずオシャレと色気が欠かせない都会派のライフスタイルに、これほどまでに寄り添えるメーカーなど、世界広しといえどもココだけと断言できる。

そんなマセラティに、最近SUVが加わった。そう、皆様ご存じのレヴァンテだ。となれば、フェラーリ、ランボと並列にマセラにも注力している大阪のエアロメーカー「リープデザイン」が、オリジナルエアロを作るのは自然の流れといえる。ここで

1つ注意しておきたいのが、リープデザインの商品には決して派手さがないことだ。そもそもエキゾチック系は、ストックの状態で十二分に派手。そのルックスとサウンドに、振り向かないクルマ好きなどいない。なのにエアロまで派手にしてしまっただけは、クルマとエアロが相乗効果を生み出さず、逆に食い合ってしまうという考え方なのだろう。そしてこの考え方に賛同するフェラーリ458やマセラティ・ギブリユーザーは多いことから、リープデザインの哲学がユーロ市場に合致したものとご理解いただけるはずだ。

以上を踏まえ、レヴァンテのエアロパーツにも派手さは一切無添加。しかしながら、フロントからリアまでのアンダーパーツをしっかりとフォローし、

安定感を増すスタイリングの妙は、ボディプローのごとく効きまくる。

また、流行を意識してオーバーフェンダーも設定するが、付けたとしてもフェンダーカットの必要などなく、車検対応なサイズに収まる安心感があり、付けなかったとしても物足りなさをまるで感じさせない。これはユーザーサイドから見れば、選択肢の幅が広がる大きなアドバンテージとなるに違いない。

さあ、色気を重視するレヴァンテ・オーナー諸君、リープデザインのエアロとともにストリートを闊歩し、思う存分伊達を気取ってくれ給え！



01 フロントスポイラーは、バンパーに設けられたAラインをさらにダイナミックに見せることを可能にする武器だ。カーボンフィニッシュと相まって、レヴァンテの野性に火を点ける。 02 このサイドスカートもそうだが、オーバーフェンダーを除くレヴァンテ用パーツは、FRP製とご覧のような一部カーボン製をラインナップする。理想に近いものをその手に。 03 「セオリーに従い、何が何でも変える」なんて、ヤボな思想はリープデザインにはない。リアアンダーはバンパーの造形をいじらず、サイドにのみカーボンスポイラーを与えるに止めた。 04 リアウイン

ドの下部に降取り、スムーズなシルエットにフェイクを入れるのが、カーボントランクスポイラーの役目。エンブレムのブラックアウトなどとともに、リアビューの引き締め効果も上げる。 05 時代の必需品・オーバーフェンダーはフェンダーカットの必要がなく、なおかつ車検にも対応と、ストリート派にはうれしいスペックの一品だ。 06 華奢なスポークに見えるかもだが、鍛造3ピース構造による強度でSUVの巨軀を支えるハイパーフォードHF-DiC。ツヤありリムとツヤ消しディスクを組み合わせたフィニッシュの妙にも、うなるしかない。



自社のエアロ装着だけで終わらせず、レヴァンテ全体のイメージアップも視野に入れるリープデザインは、ルーフレールやドアハンドルのブラックアウトも行い、キメ方の提案も怠らない。ロードとマフラーは、パワークラフトの手によるもの。



レヴァンテに静かなる躍動を

EURO MODE 2018

SPECIFICATIONS MASERATI LEVANTE S 2016

WHEEL HYPER FORGED >> HF-DiC F:22x10J R:22x10J Finish:Matt Black Disk+Gloss Black Rim TIRE DUNLOP >> SP Sport Maxx F&R:295/30R22 SUSPENSION POWER CRAFT >> Lowering Kit EXTERIOR LEAP DESIGN >> Front Spoiler/Side Skirt/Rear Under Spoiler/Carbon Trunk Spoiler/FRP Over Fender, Front Grille/ Roof Rail/Window Frame/Door Handle Wrapping Black Out, Emblems Black Painted, Rear Under Part Carbon Wrapping

CALL >> LEAP DESIGN(リープデザイン) 06 6914-5511 <http://leap-design.jp>
PHOTO >> RYOTA SATO (佐藤亮太/sakkas) TEXT >> AKIO SATO (佐藤アキオ)

PRICE LIST

フルエアロ5点セット	1,200,000円
フロントスポイラー	320,000円
サイドスカート	250,000円
リアアンダースポイラー	200,000円
トランクスポイラー	150,000円
オーバーフェンダー	280,000円

※価格は一部カーボンタイプのもの。オーバーフェンダーはFRP製。

新・旧の楽しみ方は、どちらも 一歩も引かない魅力が満載!

AUDI TT S



01. 8Jのフォルムを引き締めるカスタムワークは、シンプルにUSヘッドライトとグリルをセット。ボディキットを組み合わさなくても十分にその魅力を引き出すことができる。 02. 足元はニュートレイルのTM13でブラッシュドのフィニッシュ。足回りはKW Ver.3を組み合わせ車高のバランスとハンドリングをサポート。 03. エンジンにはAPRのステージ2+を組み込むことで、現行モデルに引けを取らないパフォーマンスを手に入れている。



01. ほぼ完成した状態で手に入れたという8Sも好みに合わせてaddパフォーマンスのカーボンフロントリップを追加する。最新モデルだけにシンプルなアイテムを組み合わせるのは常套手段。 02. 足元にはハイパーフォードHF-LC5を組み合わせ、スタイリッシュな印象に。03. 前オーナーによってAPRのステージ2が与えられたエンジンは、パフォーマンス的にも文句なし。ただしカーボンアイテムをプラスしてリフォーム済み。



現行車には現行車の、旧モデルには旧モデルだからこそその楽しみ方が存在するのだ!

上品なスタイリングながらも実用性を損なわない堅実さ。そんなアウディのイメージから一歩踏み出したエポックメイキングといえはTTに他ならない。デザインコンセプトをそのまま実車化して市販された8Nを筆頭に、流麗なボディラインは各世代とも多くのファンをひきつけている。そんなTTだからこそ、さらに自分好みに作り変えたいといった欲求が強くなるのも仕方のないこと。ユーロモディファイのスペシャリストの5xとともにオーナーが造り上げたこの2台、2世代のTTも、そんな例に漏れることなくリファインが施されている。それぞれのオーナーによる思いも存分に込められており、通常であれば新型がリリースされると1世代前のモデルから乗り換えを考える人も多

い。しかしここに登場の2台のTTは新型が出たからこそ、改めて自身が持つモデルの良さを再認識している。例えば白の8Jに乘る結城サンは、スタイリッシュなボディは新型が出たとしても色褪せることないという。加えてフェイス周りにUSテイストを含んだカスタムを加えることで、8Jのフォルムはさらに引き締まる。もちろんパフォーマンス面も、これまで長い時間をかけて培われたノウハウによって、様々なチューニングプログラムを選択可能。そういったチューニングを加えることで、パフォーマンスは最新モデルと比較しても全く遜色ないという。自らの手で進化を続けられる環境が整っているからこそ、入手から5年経った現在も満足度は高ま

る一方なのだ。対して戸塚サンが乗るのは青の8S。5xが手を加えたTTをベースに、addパフォーマンスのカーボンリップとストップテックのブレーキシステムを追加。とにかくアクセルレスポンスが良く、回頭性も高い。さらにブレーキフィールも絶妙とくれば乗っていて楽しくなるのは当然。自動車の進化とともにアップデートされた最新のチューニングプログラムが体感できるのは、やはり最新モデルがベースだからこそというわけだ。新旧2つのベースはそれぞれに違った味わい方が存在している。最新技術の体感、もしくは愛車の進化をプロデュースと、いずれにしても甲乙つけがたい。

「デザイン&装備の進化ぶりは現行車に勝負あり!」



モデルチェンジはスタイリングやパフォーマンス面だけでなく、コクピットのユーティリティも大きなポイントとなる。最新のTTSにはバーチャルコクピットが採用されており、メーター部のモニターにナビなどが映し出される仕組み。この最新システムをはじめシート質感などは、8Jオーナーの結城さんの評価が高かったところ。また、エンジンスタートがスイッチ式になっている部分は、慣れない身としては味気なさを感じてしまうことも事実だとか。

SPECIFICATIONS AUDI TTS 2010

OWNER >>HIROYUKI YUUKI WHEEL NEUTRALE>>TM13 F&R:20x9.5 Finish: Brushed
TIRE MICHELIN>>PILOT SPORT 4S F&R:245/30R20 SUSPENSION KW>>Ver.3
Adjustable Coilover/ISWEEP>>ECS Canceller/034Motorsport>>Mount Insert BRAKE AUDI
OEM>>TTRS BRAKE Kit ENGINE APR>>ECU UPGRADE Stage2+/TCU UPGRADE/Front
Mount Intercooler/High Pressure FuelPump EXHAUST APR>>Down Pipe EXTERIOR
AUDI OE>>US Grill/US Headlight

SPECIFICATIONS AUDI TTS 2016

OWNER >>KZUAKI TOTSUKA WHEEL HYPERFORGED>>HF-LC5 F&R:20x9.5 Finish:
Brushed Anodized Black TIRE NITTO>>INV0 F&R:225/30R20 SUSPENSION
KW>>Ver.3 Adjustable Coilover/ISWEEP>>ECS Canceller/034Motorsport>>Mount Insert/End
Link/Eurocode>>Sway Bar BRAKE STOPTECH>>ST60 Trophy Kit ENGINE APR>>ECU
UPGRADE Stage2/TCU UPGRADE/Front Mount Intercooler/Intake Kit/034MOTOR
SPORT>>Carbon Fusebox Cover EXHAUST APR>>Down pipe EXTERIOR add
Performance>>Front Carbon Lip Spoiler

MORE REFINED!!
より洗練された注目仕様